

2021. 7. 24～7. 25

一ノ倉沢 衝立岩中央稜山行報告書

記 柴田



計画書整理 No.

期 間：2021年 7月 24日（土）～ 7月 25日（日）

種 別：合宿

山 域：谷川連邦（一ノ倉沢）

参 加 者：河本、柴田

コースタイム：7月25日 4:00 一ノ倉沢出合→ 5:40 テールリッジ末端→
6:40 中央稜取付→ 9:40 四ピッチ目終了点→ 13:00 最高到達点→ 15:30 四ピッチ目終
了点→ 17:15 中央稜取付→20:00 テールリッジ末端→ 22:15 一ノ倉沢出合

記録

前夜泊で一ノ倉沢出合に泊まり、衝立岩中央稜を登り北陵を降る計画だったが、時間がおしてしまったため同ルート下降した。

以下、詳細

1日目 曇り

お昼過ぎに神奈川を出発し、環八経由で夕方水上 ic を降りて、夕食を食べ谷川ロープウェイ駅に駐車。1時間弱かけて一ノ倉沢出合まで歩いた。幕を張って翌日の準備をして9時頃就寝。

2日目 霧→曇り→晴れ→曇り

3:15起床、テントを撤収しギアを身につけ午前4時出発。雨は降っていないが、山の方はガスっており岩が濡れていないかと心配しながらの出発。出合から5分ほど沢沿いを歩くと右岸に巻道があり、その道を15分ほど歩くと雪溪の上に飛び出た。雪溪上は冷気が流れていて、涼しく空気が冷やされて視界が悪かった。しばらく歩いた先の二股を間違えずに右側へ歩き、右岸に巻道があるとの情報を頼りにスノーブリッジの崩壊箇所を渡渉したりしながら右岸側を歩いた。途中雪溪が薄く残っている箇所が多くあり、慎重にルートを選んだ。巻道の初めにはフィックスが張ってあり、支点もあったので、分かりやすかった。15分ほど歩くと懸垂支点があり、降りた先にはテールリッジの末端が見えた。50mロープ一本で懸垂を終え、雪溪を渡りテールリッジに取り付いた。雪溪の残っている末端の左側から取り付いた為、少し登りづらかった。元のルートに合流するとフィックスが張ってあり、セルフを取りながら登っていった。1時間程草と岩の混じる道を歩いていくと中央陵の取付に7時前に到着した。



最初の巻道



雪溪(中央右に巻道が見える)



リッジ手前の懸垂



テールリッジ末端



テールリッジ取付



フィックスがある

装備を整え、クライミングシューズに履き替えて登攀開始。奇数ピッチを河本さん、偶数を柴田が担当。

1 ピッチ目 河本さんリード IV

スタートから左側へスラブから逆層フェース。心配していた岩は濡れておらずしっかりフリクションが効いた。ホールドは豊富にあり、傾斜も緩く iV にしては優しく感じた。40m 程のところにテラスがあり、比較的マシな懸垂支点がある。



1 ピッチ目左上へ登る



1 ピッチ目途中

2 ピッチ目 柴田 II

支点から左の一段降りた場所に踏み跡があり、そこを辿って左にトラバースと簡単な階段状のルンゼに出る。そこから 15m 程上に確保支点がある。

3 ピッチ目 河本さん IV

左に巻いた分ここで右にコースを正す。始めは支点から真右にトラバース、切れていて先が見えず高度感がありスリリングなルートだった。2.3m 右にズレて上に登る。ここからはハーケンもホールドもあり安心感があつた。3 ピッチ目でロープを伸ばしすぎない方がいいとの記録があり、少し上がった一つ目の支点でピッチを切ったが、すぐ上に支点があり、4 ピッチ目でロープが足らなくなる為、二つ目か三つ目の支点まで頑張った方がいいと思った。



3 ピッチ目トラバース

4 ピッチ目 柴田 V-

左上に核心のチムニーが見えているが、50m で足りなそうだった為、途中で一度ピッチを切ってからスタートした。初めのフェースも比較的ホールドが小さく難しかったが、ハーケンが沢山あり安心感があつた。チムニーを抜けず左側のフェースを登った方が楽みたいだったが、チムニーを登った。チムニーに入って前半はホールドがあ

り正対で登れるが、徐々にホールドが無くなり、ザックを横にずらし足と背中で突っ張り棒の要領でよじ登った。チムニーを抜けた先、左側にカバがあるのでそれを掴んで身体を起こすとすぐ先に広めのテラスがある。そこでピッチを切った。



4 ピッチ目終了点

5 ピッチ目 河本さん III

草付きの凹状フェース。階段状でそれまでと比較すると高度感もなく易しかった



5 ピッチ目

6 ピッチ目 柴田 III +

草付きのルンゼ。ザイルの流れを気にしながら、右側にある岩に沿って登っていくとピナクル?があり、確保支点が付いていたのでピッチを切った。



6 ピッチ目終了点

7~12 ピッチ

ここの辺りから左側にズレたか、最終ピッチで左にズレた為、峠には到達したが、中央稜の終了点には辿り着けなかった。7ピッチ目以降の道は草付きで基本的にはそ

ここまで難しい箇所は無かった。また残地ハーケンやピナクル・草などがありプロテクションを取ることは出来た。しかし、最終ピッチは直上するルートは IV 程の難しさがあり、そこを右に巻けば中央稜の終了点に辿り着けたのではないかと思う。

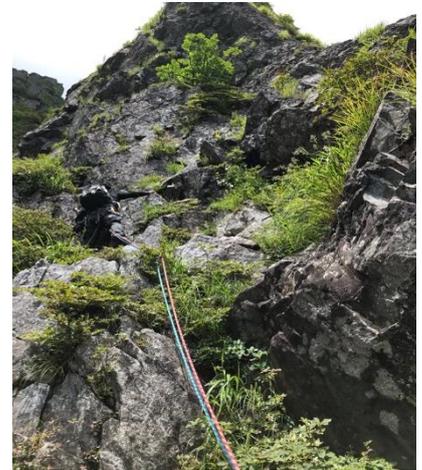
直上したルートの先にはピナクルにかけられた捨て縄の懸垂支点があり、そこを終了点とした。



7ピッチ目



9ピッチ目



11ピッチ目



終了点

時間も 13 時と押していたので、急いで懸垂の準備に取り掛かり下降を開始した。最高到達点から 4 回の懸垂で 6 ピッチ目の終了点に到達した。ロープ 2 本を繋ぎ長めの懸垂で降りたが、ロープがうまく流れず登り返したり、絡まったりと時間をかけてしまった。下部でも同様の事は起きたが、特に上部の草付きの場所は短くピッチを切った方が良かったと感じる。また、懸垂支点を動くゆとりが無かった事もロープが上手く引けない原因だったのではないかと思う。そこから 1 度の懸垂で 4 ピッチ目終了点、そこから 3 度の懸垂で中央稜取付まで降りることができた。途中強目の雨が 30 分ほど降り、岩が濡れ滑りやすくなったが、下降する分にはそれ程影響は無く助かった。



テールリッジ降り

懸垂に手間取った事もあり、取付到着が 17 時頃となってしまった。雨も上がり気持ちとしては急いで降りかったが、先程の雨で岩が濡れておりとても滑るため、慎重に降らざるを得なかった。ちょうどテールリッジの末端に到達した頃に日が落ちて辺りが暗くなった。テールリッジの末端はクライムダウンするのは難しく、視界も悪く懸垂支点があったので、行きと同じ道を雪渓まで懸垂下降した。

雪渓も滑るため軽アイゼンを装着して、行きに懸垂した右岸のポイントまで渡った。懸垂したポイントは高度感はあるが途中までは階段状で登り易く、懸垂支点直ぐ下の上部が悪かったが直上せず左に巻くと登りやすかった。そこからは巻道を下り、再び雪渓に降り立つと、昼間に雪渓が崩れて行き道とは様子が若干変わっていた。

冷気で光が曇り視界が悪い中、薄い氷に注意して何とか左岸に渡れる場所を探した。左岸側に渡ってからは雪渓の隙間を縫って下った。無事雪渓の下りを終え、沢沿いを下っていると段々道が悪くなりへつれそうに無かったので、右岸を突き上げて巻道に辿り着いた。巻道を少し歩くと、出合手前の石道に出て、そこから 5 分ほど歩いて 22 時過ぎ一ノ倉沢出合に到着した。デポした荷物を回収しビジターセンターへの帰路についた。

感想

今回は初めての一ノ倉沢での登攀だった。到着も遅くガスっていて全容は拝めなかったが、何とも言えぬ威圧感があった。山行の内容については北陵を降れませんでしたし、予定よりも大幅に時間を超えてしまって、自分の未熟さを実感しました。ロープワークやルート取りなど基本的な事をもっと勉強する必要があると感じました。また、ルートについては雪渓の状態は悪かったと思いますが、ガスっていた割には岩も湿っておらず登りやすかったですし、ハーケンも所々に打ってあって持って行ったカムもハーケンも使わず、想像していたよりも岩場は整備されていたように思います。レベルアップしてまたいつか、最後まで登って北陵を降ってみたいと思います。今回も河本さんにとっても助けられました、いつもありがとうございます。